

## 授業料不徴収協定に基づく派遣交換留学終了報告書

所属（本学）	理学部物理学科	現在の学年	学部3年
留学先国	トルコ		
留学先大学	中東工科大学		
留学期間	2013年9月2日～2014年6月7日		

留学中に書いていたブログもご参照ください(同時期中東工科大学に留学していた明治大学の日本人学生と共同のブログです):

<http://toruko-ryuugaku.blogspot.ru/>

### ① 留学先大学の概略

大学:

中東工科大学(ODTÜ,オツテュ; Orta Doğu Teknik Universitesi)は1956年に設立された名門国立大学であり、現在94カ国から1700人以上の留学生を含む約2万6500人の学生を擁します。なお名称は工科大学となっていますが、文系の学部・学科も設置されています。授業や学業関連のアナウンスメントは基本的に英語で行われます(⑧留学先での語学状況)。中東工科大学における学年度は2セメスター制で、基本的に前期は9月の最後週から始まり1月の中旬まで、後期は2月の中旬から始まり6月の中旬に終わります。



正門 A1 ゲート前のオブジェ

キャンパス:

メインキャンパスであるアンカラ・チャンカヤキャンパスは約4500ヘクタールと非常に広い敷地を有します。キャンパス内の移動が大変なことがあります。キャンパス内には循環バス(RING)も走っています。キャンパス内には銀行、郵便局やショッピングモールなどが揃っており、基本的にはキャンパス内で生活に必要な最低限のものは揃えることができます。レストラン、学生食堂も充実しており食事に困ることはありません。また各学科の棟には小さなカンティーンが設置されており軽食程度はここで取ることができます。図書館は、平日は11時半、祝祭日は9時まで開いています。学術書はほとんどが洋書で、一般の小説などはトルコ語のものも多くあります。学内のほとんどの建物にはWi-fiが設置されており便利です。またアンカラの中心から25kmほど離れたところに、中東工科大学が管轄するエイミール湖を含めた3043ヘクタールの森林地帯があり、休日に訪れる学生や家族連れも多いです。



図書館前に咲く桜

アンカラ:

アンカラはトルコ共和国の建国に伴って1923年イスタンブルより遷都された人口440万人の首都です。イスタンブルと違い観光地はあまり多くありませんが、公共交通機関やショッピングモールなども揃っており、住むには快適な場所です。滞在中は、中心街であるクズライ(Kızılay)やカフェやレストランが並ぶトゥナル(Tunali)、バフチェリ(Bahçeli)などへ出かけることが多かったです。これらの地域への移動は、キャンパス内から出ているミニバス(ドルムシュ)や公共バスを使用して20分程度です。また私が滞在中に大学のA1門の目の前に地下鉄の駅が開通したため便利になりました。なお一部地域への夜の歩きを除けば、治安の面でも大きな問題があるという話は聞いていません。学内外で政治関連のデモが多く実施されていますが、深い関わりを避ければ生活に支障はきたしません。

## ② 留学前の準備

一般的な留学情報については、留学生交流課を通じて以前中東工科大学へ留学していた方から直接お話を聞くことができました。またJICAの『アンカラ生活情報』というPDFファイルがインターネット上にアップされているのでそれも参考になると思います。一般的にトルコ、特にアンカラでの留学や生活については情報が不足している面があると思います。留学中に明治大学からの日本人留学生と共にブログを開設したのでそちらも参考にしてください：  
<http://toruko-ryuugaku.blogspot.ru/>

学科長とお話した結果、実験の単位交換を認めるのは非常に難しいというお答えをいただいたので、学部三年生を一年間繰り返す形で留学することを決めました。そのため単位交換については細かな計画を立てず、自分の興味のある科目のみを履修しました。

中東工科大学への交換留学の応募のために留学動機を書く作業が一番苦勞を要しました。まず留学希望者向けに書かれたハウツー本を図書館で借りて参考にしながら書きました。次に東工大のネイティブの英語教員に添削をしていただきました。私はかなり甘い見込みのスケジュールで行動していたため、提出は期限ギリギリになってしまいました。保険は留学生交流課で指定された東京海上日動の留学に加入しました。また住居は交換留学の応募の際に希望の寮を指定しました(⑦留学先での住居)。ビザ取得には二名の方からの推薦状(日本人可)が必要なので、早めに推薦状の依頼をするのが良いと思います。私は高専時代の担任教員と東工大での担当教員から推薦状を書いていただきました。また、トルコ語はほとんど知識ゼロで入門書だけ用意して出発しました(⑧留学先での語学状況)。

トルコはレストラン、一般の商店からスーパーまでクレジットカードで買い物できる場所が多いので、クレジットカードは用意しておくのが賢明だと思います。またクレジットカードとは別にJTBのMonetTGlobalで国際キャッシュカードを用意しました。手取り早く現金を日本から受け取るために国際キャッシュカードは便利でした。(また6か月以上の在留許可証があれば現地での銀行口座開設も可能でした。)

履修する授業についてはホームページ上で開講科目の確認をしました。二点注意すべき点がありました。一つは大学ウェブサイトの"Academic Catalog"や学科ホームページなどにある科目一覧が必ずしも実際に開講されるとは限らないことです。大学ウェブサイト

の”Courses Offered”というページで学期ごとの開講科目が確認できました。もう一点は、開講科目の中に科目名があっても、学生が五名以上集まらない場合は授業が開講されない点です。必修科目などでは心配ありませんでしたが、学生数が少ないと予想される科目の授業を取る場合は注意が必要でした。また実際に受けたい授業が開講されなくなった場合は担当の教員と相談したり、他学科の似たような授業を取ったりしました。中東工科大学では交換留学生はどの学部・学科のどの学年の授業でも、また大学院の授業でも、自由に授業を履修することができます。非常に広い選択肢の中から履修科目を選択できます。

### ③ 留学中の勉学・研究

前述したように(②留学前の準備)、取りたい科目が必ずしも実際にその学期に開講されるとは限らない、開講科目の中に科目名があっても学生が五名以上集まらない場合は授業が開講されない、という二点に注意して履修登録をしました。また、中東工科大学では交換留学生はどの学部・学科のどの学年の授業でも、大学院の授業でも、自由に授業を履修することができます。なお、1単位あたりおよそ1時間/週の講義があります。授業開始から履修登録の間には二週間の猶予があり、その間にいくつかの授業に出たり、学科のアドバイザー(Erasmus Departmental Coordinator)と相談したりして授業を決めました。

物理学科では講義形式の授業は東工大の物理学科とさほど変わりませんでした。特に数式を多く利用する物理学では英語での勉強自体に大きなバリアはなかったと思います。また日本ですでに学んだ内容の被っているものもありましたが、アプローチの仕方が違ったり、重点を置くポイントが違ったりして、新しい視点を得ることができました。なお、中東工科大学の物理学科には演習の授業が設置されておらず、教授によっては補講という形で演習の時間を確保する方もいました。どの教授からも、質問などを持っていった際には時間を割いて親切に接していただきました。

専門以外の科目では Department of International Relations から交換留学生向けに開講されているオスマン帝国後期から現在までのトルコの政治や社会問題を取り扱う授業を履修しました。授業の内容自体は、当然日本であまり取り扱われることのない話題だったため新鮮でした。また他の学生はほとんどが普段関わることのないヨーロッパからの文系の学生で、彼らと関わること自体大きな刺激となりました。ディベート、プレゼンテーションなど普段やらないことをできたのも大きな経験でした。専門分野の物理学では英語で大きな苦労はしませんでした。専門外の分野で英語の堪能なヨーロッパの学生と授業を共にするのはかなり苦勞しました。



教室にて

### ④ 留学中に行った勉学・研究以外の活動

留学期間終了後に約1ヶ月間半、アンカラからバスで3時間ほどのエスキシェヒルという町でボランティアをしました。トルコ赤新月社(Türk Kızılayı)のエスキシェヒル支部でイラク、イラン、ソマリアなど中東周辺諸国からの難民を支援する仕事でした。トルコには周辺諸国から多くの難民が来ていますが、彼らは公式に働くことができず経済的にも精神的にも苦しい状況の元暮らしています。またトルコは難民の一時的な受け皿に過ぎず彼らは国連を通して第三国への移送されるのを待っている状態です。人によっては5年以上トルコで仕事や友人もなく移

送を待っている方もいました。トルコ赤新月社のエスキシェヒル支部では EU を通して難民支援のボランティアを受け入れています。2 か月程度ボランティアに空きができたため、知り合いの伝手を使って空きを埋めるような形でボランティアをさせていただくことができました。具体的な仕事内容は英語と日本語の授業でした。また、仕事以外にも難民の方々とチャイを共にしたりして、なるべく話を聞くように努めました。帰国後も何らかの形で微力でも彼らの支援に関わっていきたいです。



ボランティア先にて

一度アンカラ大学の付属のトメル(Tömer)という語学学校に 1 週間ほど体験的に授業を受けに行ったことがあります。トルコ周辺の中東諸国やバルカン諸国、ロシアなどからの学生が多く彼らとの会話も楽しかったですし、授業自体も非常にクオリティが高かったですが、語学学校というものが自分の肌に合わないと感じたためそれ以上続きませんでした。なお、東京外国語大学や創価大学からアンカラ大学へ交換留学に来ている日本人留学生の多くがトメルでトルコ語を学習しているようです。

また、学内では日本文化サークル(Japon Kultur Topluluğu)とオリエンテーリングサークルに時々顔を出していました。日本文化サークルでは、マンガやアニメなどに興味のある学生や日本語を学習中の学生と多くで会う事ができました。英語で積極的にコミュニケーションをとる姿勢を見せてくれる学生が多く助かりました。サークル外でも一緒にチャイを飲んだりして時間を共にすることが多かったです。オリエンテーリングサークルは学内の広大な森を利用してオリエンテーリングをするサークルです。こちらではあまり英語を話す人が多くなかったのでコミュニケーションをとるのが難しく、あまり参加する機会は多くありませんでした。トルコ語を知らない方がサークルに参加する場合はまず、様子見で顔を出してみても英語で話してくれる友人を見つけられれば参加するのが良いと思います。

学内には年中使える 50m の屋内プール(オリンピックプール)と夏期のみ使用可能な 25m の屋外プールがあります。私は時々空いた時間を利用して水泳をしていました。また私は多く利用しませんでした。トレーニング機材の揃ったジムもあります。またキャンパス内でランニングしたり自転車に乗ったりしている人も数多くいました。スポーツ関連の設備もよく備わっているので、大抵のことは学内で済ませられると思います。

旅行はトルコ国内の各地方に行きました。国内の移動は基本的にバスを利用しますが、日本のバスよりも安く快適です。あまり有名な観光地には行っていませんが、黒海地方やエーゲ海地方などは多く行きました。またテュルク系とアラブ系の混じった南部の町ハタイや、クルド人地域のディヤルバクルなどへも行きました。トルコは多民族国家で地方によって色合いが大きく異なるので楽しめると思います。トルコ人は人懐っこく、外国人に対して強い興味を示す人が多いです。旅先でチャイを飲んでいてだけで色々な人から話しかけられます。旅先でたまたま知り合って、その後休みのたびに訪問するくらい仲良くなった人もいます。また、トルコ人のホスピタリティは一つの文化だと思えます。安易に見知らぬ人に付いていくのも危ないですが、トルコ人のホスピタリティを味わうためには旅行で田舎に行ってみると良いと思います。



何度も訪問する度に暖かく迎えてくれた一家

普段の週末は家でゆっくりチャイを飲んだり、友人と街へ出かけてチャイを飲んだりしました。トルコは物価が安く、あまりお金のことを考えず遊ぶことができます。また日本料理をトルコ人留学生や仲良くなったチェコ人、ドイツ人などの留学生に振る舞う事も何度かありました。日本食材は醤油、のり、みりんなどは手に入りますが、みそやだしは日本から持っていく必要がありました。

また ESN(Erasmus Student Network)という団体が交換留学生の支援全般をしてくれます。特に到着直後には、キャンパス内の案内やウェルカムパーティなどがあり、ここで新しい友人を作る人が多かったです。ESN の主催で頻繁にパーティやスポーツイベント、また週末を利用しての旅行も開催されており、私はあまり多く参加しませんでした。他国からの留学生との交流の機会も多く用意されていました。時折アンカラ全体もしくはトルコ全体の ESN が集まったパーティが催されます。私は新年にイスタンブールで開かれたトルコ全体の ESN のポートパーティに参加しましたが、様々な人と交流できて楽しかったです。

アンカラには日本人があまり多くありませんが、アンカラ日本人会というものがあります。アンカラの日本大使館に在留届を出すと、日本人会の連絡が来ます。アンカラ在住の日本人の方々にもそれぞれ様々な境遇があり、良い交流ができました。また土日基金という団体もあり、そこで働いている日本語教師の方々や日本語を学習しているトルコ人の方々と知り合うことができたのも良い経験でした。



休日のチャイ

#### ⑤ 留学を終えて、自分自身の成長を実感したエピソード

他国の学生等との交流、海外における勉学・研究等の学校生活や日常生活を経験して、自身の成長を実感したことと思います。留学前に立てていた目標に対する達成度や苦労話など、何でも結構ですので、自身の成長を実感した中で一番記憶に残っているエピソードを教えてください。

留学の中ごろまで、今まで会ってきた日本人と異なった考え方や人付き合いをするトルコ人に対して、私は苛立ったり憤りを覚えたりすることがありました。あくまで一例ですが、日ごろのトルコ人との付き合いから、トルコ人は約束を守らないとか見栄っ張りだとかそのような

愚痴をこぼすこともありました。しかし、例えば日本人が社交辞令やお世辞を使いこなすように、外国人から見れば不誠実に見えたり無礼に映ったりする行為も彼らの社会の文化や風習の一部であり、私はその社会に溶け込まないといけないのだと気付きました。また、この経験から、一見して受け入れがたい言動をする人でも、その人の育った文化や環境に即して判断しなければ勘違いや誤解を招いてしまうのだと学習しました。

また、私はイスラムのものの考え方に興味があったため、ムスリムの友人と多く話をしました。イスラムをしっかり勉強したことがないので、はじめ彼らの考えは受け入れづらいことが多かったですが、やはり話の背景や彼らの経験談をじっくり聞いていくうちに理解できるポイントを見つけられることがしばしばありました。また、こちらが相手の話をしっかり聞いていればそのうち向こうも心を開いてくれることが多かったです。人それぞれ様々な意見があって、人の意見をまず理解しようと努める事、そしてたとえ受け入れられなくてもその意見を尊重する事の大切さを学びました。

これが成長と呼べるのかは確信が持てませんが、少なくとも異文化圏の人とコミュニケーションをとる上では、一つの健全な思考だと思います。また、このような考え方は同時に自分自身の意見についても自信を持つことに繋がりました。他人にすぐに受け入れられなくても、自分の意見は尊重される価値のあるものであり、また話を続けていけばそれなりに理解を得られるものであるはずだという考え方を持つようになりました。

## ⑥ 留学費用

渡航費※ 日本→トルコ:7万円、トルコ→日本:ロシアを旅行しながら帰ったので直通便の値段はわかりません。

生活費 食費※:約 300-450TL/月、水道ガス光熱費:約 50TL/月

住居費 寮:189TL/月、アパート:250TL/月

保険料 約 16万円/13ヵ月

奨学金 東工大基金から8万円/月×5ヵ月

※航空券は基本的に片道チケットよりも往復チケットの方が安上がりです。私は日本帰国の時期を直前まで決めたくなかったのが割高の片道チケットを買いましたが、往復チケットであれば往復で7万円程度のものであるようです。

※食費に関しては自炊したり昼食、夕食を学生食堂(一食 1.5TL)で済ませたりすればかなり節約できます。トルコは肉や野菜などの食材が非常に安く、日本の 1/5-1/3 程度の値段でほとんどの食材が手に入ります。私は自炊、学生食堂、学内に入っているレストラン、学外での外食などを織り交ぜたので一日平均 10-15TL 程度かかりました。外食は簡単なファストフードで一食 5TL、標準的なレストランで一食 10-15TL、少し高いレストランで一食 15-20TL 程度です。

## ⑦ 留学先での住居

二学期留学したうち、一学期目は寮(Isa Demiray)に住み、二学期目からトルコ人のフラットメイトと学外のアパートに住みました。現地でフラットメイトを見つけるのはそれほど難しくないと思います。私は Facebook のグループを使ってフラットメイトを見つけましたが、他の Erasmus の友人は友人伝いや Cauchsurfing などでフラットメイトを見つけました。

寮(Isa Demiray)の部屋は4人部屋で、各部屋にベッド、机、トイレ、シャワー室、冷蔵庫、食器棚、鍵付きのロッカー、暖房などが備えられています。その他寮内に、洗濯機、乾燥機、キッチン、コンピュータールーム(インターネット使用可)、食堂、公衆電話などの設備が整っています。各居室にインターネットの有線 LAN も設置されています。食事はキャンパス内のショッピングモールにあるレストランやスーパーマーケットを利用しました。

学外のアパートは、キャンパスの A4 門からすぐ近くの 100. Yil(ユズンジュ・ユル)というところに借りました。100. Yil には中東工科大学の学生が多く暮らしており、近くにスーパー、レストラン、中古家具屋、郵便局、市場なども充実しており非常に住みやすいです。典型的なアパートは家賃が 750-800TL(約 4 万円弱)程度の 3LDK で、3人で共同生活をしている人がほとんどでした。家具は過去の住人が残していったものがあるので、大抵のものは買う必要がありません。

寮にいれば教室も近く、インターネットや食事も不便がありませんし、前述したようにキャン

パス内で生活に必要なものは揃ってしまいます。その結果、寮と教室の往復のような生活になってしまいがちでした。そのような状況を打開すべく後期から学外に住み始めました。友人を招いてパーティーをしたり、市の中心に行きやすかったり、何より一般のトルコ人と同じ環境で生活することで色々新しいものが見えたりと、結果的に学外に住んだ方が良い経験になったと個人的には思いました。



チェコ人留学生とのクッキングパーティー

#### ⑧ 留学先での語学状況

トルコ語はほとんど勉強せずに行ったため、現地で実質ゼロから空いている時間などを利用して学びました。アンカラは街に出ると英語が通じる人はほとんどいません。ただし困っていれば大抵人がゾロゾロと集まってきて助けてもらえますが、初めの数週間は各種手続きで困ることが多かったですが(⑩留学先で困ったこと)、数か月程度で生活に困らない程度のトルコ語は身に付きました。また旅行を繰り返していくうちに、旅行に関しても困らない程度のトルコ語が身に付きました。またドイツでの就労から帰ってきた方々も多く、中年男性などはドイツ語を知っている人がどこでも一定数いました。私は高専時代にドイツ語を勉強していたため、何度か助けられることがありました。

授業では先生、学生を含め、トルコ人が多数です。そのため、しばしば学生がトルコ語で質問したり、先生がトルコ語でコメントしたりすることがあります。また授業の一部をトルコ語で授業が進行する先生もいます。わからないことがあれば教員に英語で繰り返してくれと言えば、きちんと対応してくれます。しかし残念ながら学生は相変わらずトルコ語で話し続ける人もいました。また、授業外では積極的に英語を話してくれる友人を見つける必要があると思います。特にサークルに参加する場合など、周りに英語を話してくれる人がいなければやはり寂しいものです。もちろん英語の堪能な学生は多くいるので、すぐにそのような人は見つかります。

トルコ語を多く知れば知るほど、現地の人との交流の機会も増え密度も濃くなることを実感しました。日本でトルコ語を学習しなかったことは大きな反省点です。ただしトルコへ行ってしまっただけからは根を詰めてトルコ語を学習していくよりは、既にある程度喋れる英語を交えながら現地人と関わっていく方が効率的かとも思います。

#### ⑨ 単位認定、在学期間

単位認定は認められる範囲のものは行う予定です。ただし必修科目である実験科目の単位交換が認められないため在学期間を一年間延長します。

#### ⑩ 就職活動

大学院に進学予定のため、就職活動は行っておらず、予定も特にありません。

#### ⑪ 留学先で困ったこと(もしあれば)

アンカラは首都ですが驚くほど英語を話せる人が少ないです。警察署での在留許可証(イカメット)の取得や、銀行での口座開設、またおそらく初めのうちは簡単な買い物や食事でも大きな不便を感じると思います。重要な手続きの際にはトルコ人の友人に付き添ってもらい通訳をしてもらうのが良いと思います。

携帯電話がないと不便だったため、現地で中古の携帯電話(50TL、2500 円程度)を購入しましたがすぐに壊れてしまいました。周りにもそのような事例が多くあったので、日本で使っている携帯電話を海外でも使えるようにして持っていくのがベターだと思いました。また関税のため海外製の電気製品全般が少し高いです。国産の電気製品は質の悪いものが多いため、日本から持っていけるものは持っていった方が良いでしょう。

滞在許可証(イカメット)についての注意事項です。

まず、入国後のイカメット取得についての注意事項です。トルコへ3ヵ月以上滞在する外国人は入国後1ヵ月以内に最寄りの警察署でイカメットを取得する必要があります。前述のとおりアンカラ警察署では職員は英語を話せないと考えていいです。友人や知人に通訳をお願いして警察署へ一緒に行ってもらうのが無難だと思います。

次に、イカメットの期限が切れた後も旅行などでトルコに滞在したい人への注意事項です。中東工科大学の国際交流室(ICO)からは、イカメットの期限切れ後は観光ビザを取得するようにアドバイスを受け、手続きがスムーズになるような書類も用意していただきました。しかし私や私の周りの友人たちは実際に警察署に行っても、観光ビザを交付してもらえませんでした。私はイカメットの期限切れ後数日に一度チェコに旅行に行きましたが、トルコからの出国の際イミグレでイカメットの期限が切れている事を指摘されました。数分間その場で待たされましたが結局罰則などはありませんでした。しかし私の友人はイカメットの期限切れ後数か月してから日本へ帰国する際に、イミグレで数万円の罰金を支払うか5年間トルコへの入国を禁じられる罰則を受けるかの選択を迫られたそうです。

イカメットやビザに関しては取得規則がしばしば変わり、また実際取得の際には担当職員次第で対応が変わるといふようなところがあるようです。しっかり下調べをしたつもりでも計画通りに手続きが進まないことがしばしばあるので、やはり友人に通訳をお願いして警察署に一緒に行ってもらうのがベストだと思います。

## ⑫ 留学を希望する後輩へアドバイス

私は専門分野の研究や勉強を直接目的にした留学ではなく、トルコと言う未知の国の文化や歴史、人々の思想を見たいという思いから留学をしました。一言で言って、明確な目標や計画のない留学でした。特にトルコ留学前も留学中も、なぜ物理学科の学生がトルコへ？という声をたくさん聞きました。そのような声を多く聞かされるうちに自分自身、なぜここへ留学したのだろう、単に遊びでトルコに来ているんじゃないだろうか、などと悩む時期がありました。しかし留学を終えてみて私のような留学も価値あるものだと考えるようになりました。

第一に、留学の動機や目的は必ずしもはっきりしていなくてもいいのではないかと思います。私の経験では、現地に行くまで知らなかった事や考えもしなかった事から学ぶことはとても多かったです。動機や目的ははっきりしているに越したことはないでしょうが、そうでなくても学ぶことは他にいくらでもあるので、思い切って留学に行ってしまうのも一つの手だと思います。

第二に、私のように専門分野と直接関係のない理由で留学するのも有意義なことだと思います。私は一年間完全に物理から離れてしまう事には抵抗がありトルコではほとんど物理の授業を受講しましたが、ヨーロッパからの交換留学生には一年間専門外の勉強をしている人もいて、そんな選択肢もあったかと衝撃を受けました。日本人には専門分野一筋に傾倒するのを良しとする人が多いような印象を受けますが、大学四年間の中で半年や一年くらい異なった環境に身を置いてみるのもいいのではないかと思います。

留学前の準備に関して反省点を挙げるとすれば、トルコ語の学習を怠った事です。言葉は現地で学べばいいと思っていましたが、実際に行ってみるとあまり悠長にトルコ語を勉強している時間はありませんでした。現地でゼロから言葉を学ぶというのもある意味面白い体験ではありましたが、やはり現地語はできる限り日本で学んでおくにこしたことはないと思います。少しずつトルコ語を勉強するたびに現地の人とチャイを飲み交わしながらの会話が何倍も楽しくなったことを記憶しています。

言葉の他に現地の風習、文化や歴史、政治などについても、興味があるのであれば事前の学習が大事だと思います。出発前に本やネットで身に付けた知識は、現地に行ってから助けになりました。私は政治について日本でいくら本を読んで多少は知識を持っているつ



もりでした。現地に行ってみれば未知の事ばかりで恥ずかしくなりましたが、それでも何も知らなかったよりは全然マシで、自分の少ない知識を基にして、様々な人と交流しながら知識を深めていくのはとても楽しい体験でした。文化でも歴史でも政治でもこれらは関連しあっているため、一つでもとっかかりがあれば何を学ぶにしてもアドバンテージになると思います。

トルコは面白い場所です。行く前はヨーロッパとアジアの交叉する地点などと漠然と考えていましたが、そんな一言では語れないほど複雑な歴史や文化を持った国でした。私個人としては、アメリカでもヨーロッパでもアジアでもない、トルコと言う国に留学することができてよかったと考えています。しかしこの国、地域でも独特の面白さがあると思います。留学先の選定の段階では色々考えることがありますが、一度決まったら精一杯留学先の国、地域を楽しんだらいいと思います。